

---

リリース 9.3.1.1

---

Oracle® Data Integrator Adapter for Hyperion®  
Planning ユーザーズ・ガイド

ORACLE | Hyperion

Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Planningユーザーズ・ガイド, リリース9.3.1.1

部品番号: E06145-01

2008年5月

原本名: Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Planning User's Guide, Release9.3.1.1

原著者: Cheryl Morrison

Copyright © 2007, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

#### 制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとし、著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるとしてプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありません。

このプログラムは、第三者のWebサイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者のWebサイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

---

# 目次

---

1. Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Planning の概要.....	3
用途.....	3
統合プロセス.....	3
アダプタの使用.....	4
2. 環境の設定 .....	5
データ・サーバーの定義.....	5
物理スキーマおよび論理スキーマの定義.....	7
3. Planning アプリケーションのリバースエンジニアリング .....	9
リバースエンジニアリングとは.....	9
Hyperion Planning RKM の使用方法 .....	9
4. メタデータおよびデータのロード .....	13
データ統合タスク .....	13
インタフェースの作成.....	14
メタデータのロード.....	14
データのロード.....	16
ロード・オプション.....	17
データストア表.....	18



# 1

## Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Planningの概要

### この章の内容

用途.....	3
統合プロセス.....	3
アダプタの使用.....	4

## 用途

Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Planning を使用すると、Oracle Data Integrator を介して Oracle の Hyperion Planning - System 9 をあらゆるデータベースと接続および統合することが可能になります。このアダプタは、Planning、Oracle の Hyperion Workforce Planning および Hyperion Capital Expense Planning のアプリケーションにメタデータおよびデータをロードするための Oracle Data Integrator ナレッジ・モジュール (KM) のセットです。

## 統合プロセス

### 注意:

Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Planningのインストール手順は、アダプタに含まれている『Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Planning Readme』を参照してください。このReadmeドキュメントは、Oracle E-Deliveryからダウンロードすることもできます。

Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Planning を使用した Planning アプリケーションへのメタデータおよびデータのロードは、次のタスクで構成されています。

- 環境の設定: Hyperion Planningテクノロジーのインポートと、データ・サーバーおよびスキーマの定義

詳細は、第2章「[環境の設定](#)」を参照してください。

- アダプタのリバースエンジニアリング・ナレッジ・モジュール (RKM) を使用した Planning アプリケーションのリバースエンジニアリング

詳細は、第3章「[Planning アプリケーションのリバースエンジニアリング](#)」を参照してください。

- アダプタの統合ナレッジ・モジュール (IKM) を使用した Planning アプリケーションへのメタデータおよびデータのロード

詳細は、第4章「[メタデータおよびデータのロード](#)」を参照してください。

# アダプタの使用

Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Planning を使用する際、次の Oracle Data Integrator の機能を利用します。

- トポロジ・マネージャ: Planningアプリケーションへの接続を定義するために使用します。

詳細は、第2章「[環境の設定](#)」を参照してください。

- デザイナ: データストアにメタデータおよびデータをロードするために使用します（このデータストアは、Planningディメンションを表すターゲット表です）。

Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Planning には、次のデータストアを作成する Hyperion Planning RKM が組み込まれています。各データストアの詳細は、該当する項目を参照してください。

- 19 ページの「[Account](#)」
- 27 ページの「[Employee](#)」
- 32 ページの「[Entities](#)」
- 38 ページの「[ユーザー定義のディメンション](#)」
- 43 ページの「[属性のディメンション](#)」
- 45 ページの「[UDA](#)」

デザイナで、Hyperion Planning RKM を使用してデータストアを作成します。次に、同様にアダプタに組み込まれている IKM SQL to Hyperion Planning を実行してメタデータをデータストアにロードします。その後で、IKM を使用してデータをロードします。たとえば、勘定科目リストを Accounts データストアにロードした後、そのリストの勘定科目にデータをロードすることが可能です。

# 2

## 環境の設定

### この章の内容

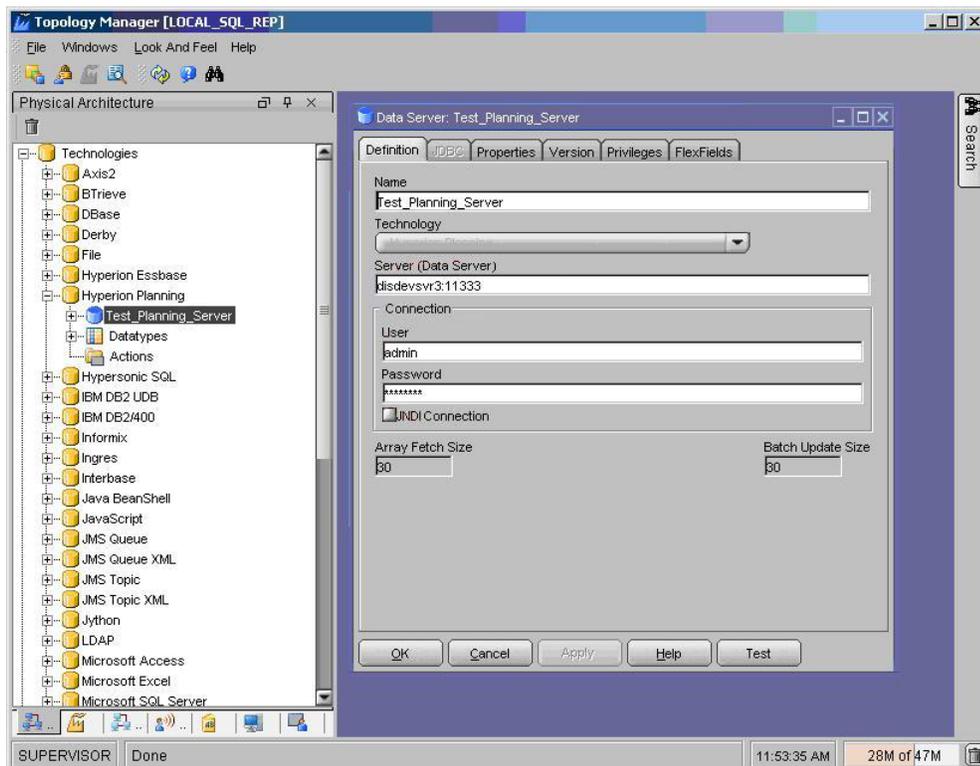
データ・サーバーの定義.....	5
物理スキーマおよび論理スキーマの定義.....	7

## データ・サーバーの定義

- ▶ Planning サーバーに接続するためのデータ・サーバーを定義するには、次のようにします。

- 1 「テクノロジー」を開きます(図1を参照)。

図1 データ・サーバー定義



- 2 Hyperion Planningを右クリックして「データ・サーバーの挿入」を選択します。

**注意:**

Hyperion Planningテクノロジーがマスター・リポジトリに定義されていない場合は、「ImpExp」フォルダからインポートできます。

- 3 「定義」タブで、次のようにします。

- a. 「名前」に、データ・サーバー定義の名前を入力します。
- b. 「サーバー (データ・サーバー)」に、Planningアプリケーションのホスト名およびRMIポート番号を次の形式で入力します。

*host:port*

- 4 「接続」に、データ・サーバーに接続するためのユーザー名およびパスワードを入力します。

**注意:**

Hyperion Planningのデータ・サーバー接続に対して「テスト」ボタンは機能しません。このボタンが機能するのは、JDBCドライバを持つリレーショナル・テクノロジーに対してのみです。

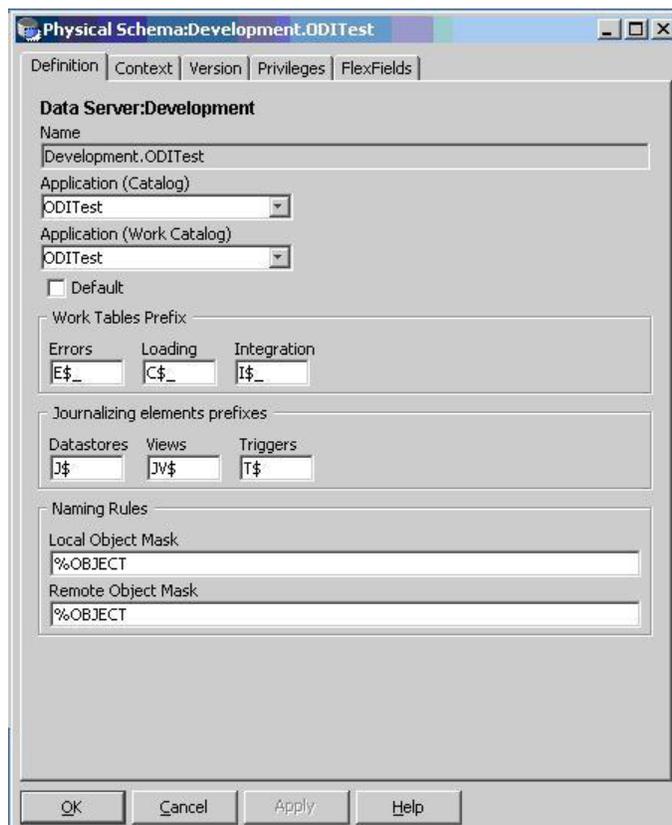
- 5 「OK」をクリックし、データ・サーバー定義を検証して保存します。

物理スキーマを定義するためのページが表示されます。詳細は、7ページの「[物理スキーマおよび論理スキーマの定義](#)」を参照してください。

## 物理スキーマおよび論理スキーマの定義

データ・サーバーの下に、アプリケーションに対応する物理スキーマと、モデルのベースとなる論理スキーマを定義できます。データ・サーバー定義を保存すると、スキーマを定義するページが表示されます（図2を参照）。

図2 スキーマ定義



Oracle Data Integrator および Adapter for Hyperion Planning での作業は、論理スキーマを使用して行います。コンテキストは、論理スキーマと物理スキーマのリンクに使用します。

- ▶ 物理スキーマ、論理スキーマおよびコンテキストを指定するには、次のようにします。
  - 1 スキーマ・ページの「定義」タブで、Planningアプリケーションを指定します。  
図2で指定された Planning アプリケーションは、ODITest です。
  - 2 「コンテキスト」タブで、次のようにします。
    - a. コンテキストおよび論理スキーマを選択します。
    - b. 「OK」をクリックし、論理スキーマを「定義」タブで指定した物理スキーマに関連付けます。

物理スキーマ、論理スキーマおよびコンテキストの詳細は、『Oracle Data Integrator ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

# 3

## Planningアプリケーションのリバースエンジニアリング

### この章の内容

リバースエンジニアリングとは.....	9
Hyperion Planning RKM の使用方法.....	9

### リバースエンジニアリングとは

Planning アプリケーションをリバースエンジニアリングすると、Oracle Data Integrator モデルが作成されます。このモデルは、アプリケーションの各ディメンション用のデータストアで構成されます。リバースエンジニアリング、モデルおよびデータストアの詳細は、『Oracle Data Integrator ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

### Hyperion Planning RKMの使用方法

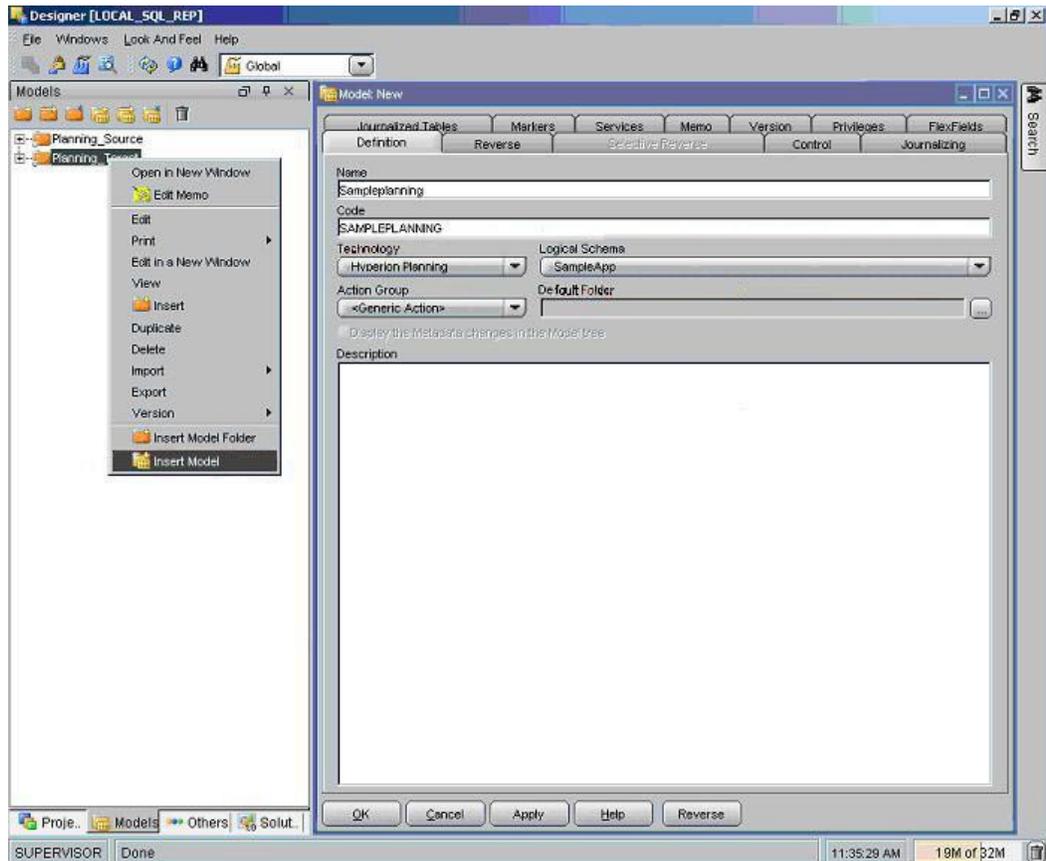
アプリケーションをリバースエンジニアリングするには、Oracle Data Integrator デザイナを使用します。デザイナの詳細は、『Oracle Data Integrator ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

- ▶ Planning アプリケーションをリバースエンジニアリングするには、次のようにします。
- 1 「モデル」ビューで、新しいフォルダを挿入します。

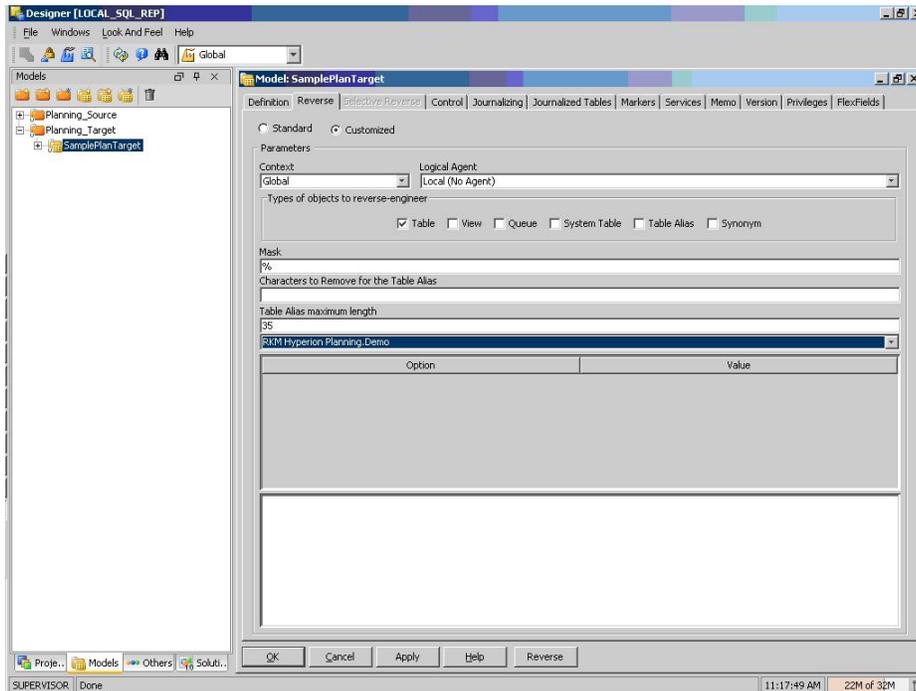
たとえば、「Planning\_Target」フォルダを作成します（図 3 を参照）。

- 2 「Planning\_Target」フォルダを右クリックして、「モデルの挿入」を選択します。

図3 モデルの挿入



- 3 新しいモデルの名前を入力してHyperion Planningテクノロジーを選択し、論理スキーマを選択します。
- 4 「リバース」タブで、次のようにします。
  - a. 「カスタマイズ済」を選択します。
  - b. コンテキストを選択します。
  - c. RKM Hyperion Planningを選択します。
  - d. 「リバース」をクリックします。

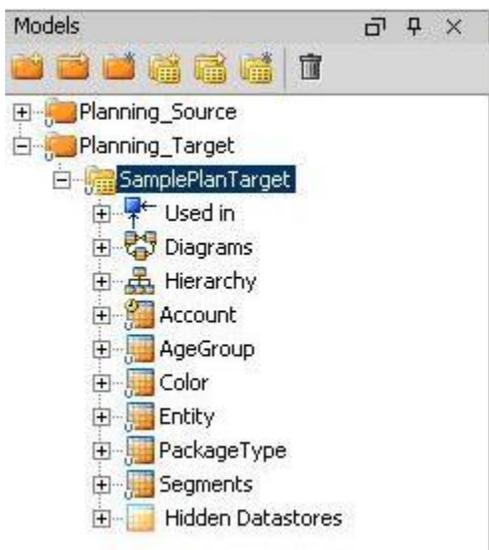


RMK が（論理スキーマおよびコンテキストによって特定される）アプリケーションに接続し、次のアイテムをインポートします。

- アプリケーションの各ディメンション用のデータストア（ディメンションと同じ名前）
- UDAロード用のデータストア（名前はUDA）

リバースエンジニアリングで発生したエラーは、Oracle Data Integrator オペレータにリスト表示されます。オペレータの詳細は、『Oracle Data Integrator ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

次の図に、リバースエンジニアリングが成功した後のモデルを示します。





---

# 4

## メタデータおよびデータのロード

---

### この章の内容

データ統合タスク.....	13
インタフェースの作成.....	14
メタデータのロード.....	14
データのロード.....	16
ロード・オプション.....	17
データストア表.....	18

## データ統合タスク

Oracle Data Integrator では、ソース・データベースから Planning アプリケーションへのメタデータおよびデータのロードは、次のタスクで構成されています。

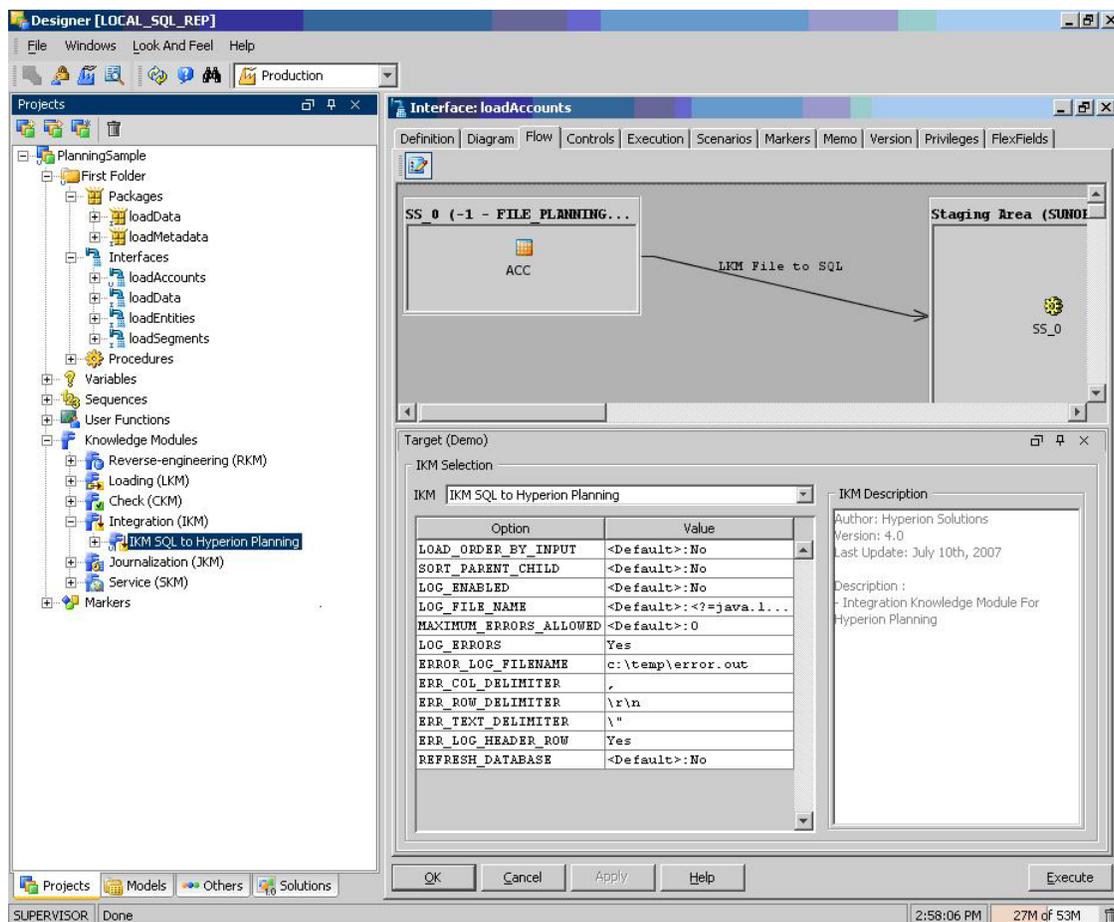
- データストア用のインタフェースの作成  
詳細は、14 ページの「[インタフェースの作成](#)」を参照してください。
- (オプション) 1プロセスで複数のインタフェースを実行できるようにするための、インタフェースのパッケージへのチェーン化
- インタフェースの使用

詳細は、14 ページの「[インタフェースの作成](#)」を参照してください。

インタフェースの作成およびパッケージへのチェーン化の手順は、『Oracle Data Integrator ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

## インタフェースの作成

**Planning** アプリケーションをモデルとしてリバースエンジニアリングすると、アプリケーションにデータおよびメタデータをロードするためのインタフェースのターゲットとして、このモデルのデータストアを使用できます。次の図に、**Planning** をターゲットとしたインタフェースのフローの例を示します。



## メタデータのロード

メタデータは、ディメンション・メンバーから構成されています。メンバー（メタデータ）は、メンバーのデータ値をロードする前にロードする必要があります。たとえば、5人の新しい従業員の給与データをロードするには、従業員を（メンバーとして）**Planning** リレーショナル・データベースにロードした後、Oracle の Hyperion Essbase - System 9 データベースにデータをロードします。

メンバーをロードできるのは、**Planning** に存在するディメンションに対してのみです。ロードするディメンションごとに別個のインタフェースを使用する必要があります。インタフェースをチェーン化すると、一度に複数のディメンションにメタデータをロードできます。

**注意:**

アプリケーションでのディメンション・メンバーのロード後に、Essbaseデータベースをリフレッシュする必要があります。Essbaseデータベースは、IKM SQL to Hyperion PlanningのREFRESH\_DATABASEオプションがYesに設定されている場合にリフレッシュされます。詳細は、17ページの「ロード・オプション」を参照してください。

▶ Planning アプリケーションにメタデータをロードするには、次のようにします。

1 インタフェースを作成します。

インタフェースには任意の名前を付けることができます。また、このインタフェースは、データだけでなくメタデータのロードにも使用できます。インタフェースの作成手順は、『Oracle Data Integrator ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

2 ダイアグラムで、ターゲットのデータストアをHyperion Planningモデルからドラッグ・アンド・ドロップします。

3 ソースのデータストアを定義します。

4 ソースとターゲットのデータ間にマッピングを定義します。

5 「フロー」タブで、次のようにします。

- a. 「IKM SQL to Hyperion Planning」が選択されていることを確認します。
- b. ロード・オプションを指定します。詳細は、17ページの「ロード・オプション」を参照してください。

6 「実行」をクリックします。

インタフェースが実行され、メタデータがアプリケーションにロードされます。

7 次のようにして、ディメンションを確認します。

- a. PlanningのWebにログオンします。
- b. 「管理」 → 「ディメンション」を選択します。

# データのロード

データは、選択したディメンション・メンバー（Planning ですでに作成済）にロードできます。データをロードするには、Planning、Workforce Planning または Capital Expense Planning のアプリケーションを設定しておく必要があります。

データのロード前に、メンバー（メタデータ）が Planning リレーショナル・データベースおよび Essbase データベースに存在することを確認します。メンバーが存在しない場合、データ・ロードは失敗します。（これには、ドライバ・メンバーおよび視点に指定されたメンバーが含まれます。）必要に応じて、メタデータをロードし、Essbase データベースをリフレッシュしてメンバーを同期化します。

Planning、Workforce Planning または Capital Expense Planning のアプリケーションにデータをロードするには、Planning で関連するデータ・ロードおよびドライバのディメンションを設定しておく必要があります。Planning でデータ・ロードおよびドライバのディメンションを設定した後に、ロードするデータを所有するメンバーに対する視点を決定する必要があります。

➤ Planning アプリケーションにデータをロードするには、次のようにします。

1 Planningで、ロードするデータについてパラメータを指定します。

- a. 「管理」→「データ・ロード管理」を選択します。
- b. 「使用可能なデータ・ロード・ディメンション」で、ディメンションを選択して「実行」をクリックします。
- c. 「使用可能なDriverディメンション」で、Essbaseデータベースでのデータのロード先となるディメンション（Accountディメンションなど）を選択します。
- d. データをロードするドライバ・ディメンションのメンバーを選択します。

Hyperion Planning データ・ロードを設定したら、Hyperion Planning RKM を使用してリバースエンジニアリング・プロセスを実行します。リバースエンジニアリングにより、データ・ロード・ディメンション用のデータストアが取得され、データ・ロードに必要な追加の列（フィールド）で更新されます。

e. 「保存」をクリックします。

2 Oracle Data Integratorデザイナーで、データをロードするためのインタフェースを実行します。

## 注意:

メタデータとデータのロードには同じインタフェースを使用できます。

3 オペレータをチェックし、インタフェースが正常に実行されたかどうかを確認します。

4 データ・ロードを確認するには、次のいずれかの方法を使用します。

- データを取得するためのPlanningデータ・フォームを作成します。
- OracleのEssbase Administration Servicesをチェックし、該当するキューブにブロックが作成されていることを確認します。

# ロード・オプション

IKM SQL to Hyperion Planning は、Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Planning がデータをどのようにロードするかを定義するための、次のオプションをサポートします。

- **LOAD\_ORDER\_BY\_INPUT**  
指定可能な値: Yes または No (デフォルト)  
Yes に設定すると、メンバーは入力レコードと同じ順序でロードされます。
- **SORT\_PARENT\_CHILD**  
指定可能な値: Yes または No (デフォルト)  
Yes に設定すると、受信レコードは、すべての親が子の前に挿入されるようにソートされます。
- **LOG\_ENABLED**  
指定可能な値: Yes または No (デフォルト)  
Yes に設定すると、ロード・プロセス中に LOG\_FILE\_NAME オプションで指定されたファイルへのロギングが行われます。
- **LOG\_FILE\_NAME**  
ログが保存されるファイルの名前です。デフォルト値は *Java temp folder/dimension.log* です。
- **MAXIMUM\_ERRORS\_ALLOWED**  
ロード・プロセスが停止されるまでの最大エラー数。デフォルト値は 0 です。  
0 または負の数値に設定すると、ロード・プロセスはエラー数に関係なく停止されません。
- **LOG\_ERRORS**  
指定可能な値: Yes または No (デフォルト)  
Yes に設定すると、エラー・レコードは ERROR\_LOG\_FILE プロパティで指定されたファイルに記録されます。
- **ERROR\_LOG\_FILE**  
エラー・レコードが記録されるファイルの名前です。デフォルト値は *Java temp folder/dimension.err* です。
- **ERR\_COL\_DELIMITER**  
エラー・レコード・ファイルに使用される列デリミタです。デフォルト値はカンマ (,) です。
- **ERR\_ROW\_DELIMITER**  
エラー・レコード・ファイルに使用される行デリミタです。デフォルト値は `\r\n` です。

**注意:**

行および列のデリミタ値は、16進で指定することもできます。0xで始まる値は16進として処理されます。たとえば、0x0041は文字Aとして処理されます。

- **ERR\_TEXT\_DELIMITER**

エラー・レコード・ファイルで列値に使用されるテキスト・デリミタです。

- **ERR\_LOG\_HEADER\_ROW**

指定可能な値: Yes (デフォルト) または No

Yes に設定すると、行ヘッダー (すべての列名を保持) がエラー・レコード・ファイルに記録されます。

- **REFRESH\_DATABASE**

Yes に設定すると、ロード操作の完了により、キューブ・リフレッシュが起動されます。

指定可能な値: Yes または No (デフォルト)

## データストア表

IKM SQL to Hyperion Planning は、表の列をロードしてデータストアを作成します。次の各項では、各データストアの列について説明します。

- 19ページの「[Account](#)」
- 27ページの「[Employee](#)」
- 32ページの「[Entities](#)」
- 38ページの「[ユーザー定義のディメンション](#)」
- 43ページの「[属性のディメンション](#)」
- 45ページの「[UDA](#)」

## Account

列	説明
Account	<p>ロードする勘定科目メンバーの名前です。このメンバーが存在する場合は、プロパティが変更されます。存在しない場合は、レコードが追加されます。このフィールドは必須です。このフィールドの値は、次の要件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>一意。</li><li>英数字。</li><li>80文字以内。</li><li>メンバー名には、タブ、二重引用符 (" )、バックスラッシュ (\ ) を使用できません。</li><li>メンバー名の先頭の文字には、'、\、&lt;、 、,、=、@、_、+、-、{、}、(、)、.、 を使用できません。</li><li>値には、Essbaseの予約語 (Children、Parent、\$\$\$UNIVERSE \$\$\$、#MISSING、#MIなど) を使用できません。Essbaseの予約語の詳細は、『Hyperion Essbase - System 9 Database Administrator's Guide』またはEssbaseのオンラインヘルプを参照してください。</li></ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。</p>
Parent	<p>ロードするメンバーの親の名前です。ディメンションでの階層の作成に使用されます。</p> <p>メンバーのデータをロードし、アプリケーションの親メンバーとは異なる親メンバーを指定すると、メンバーは指定した親値で更新されません。</p> <p>たとえば、Member 1のPlanningアプリケーションでの親値がMember Aのとき、親値Member BでMember 1をロードすると、アプリケーションは更新されてMember BがMember 1の親になります。Member 1とその子は、Member AからMember Bに移動します。列が空白のままの場合は、ロード時に無視されます。</p> <p>次の状況のいずれかに該当する場合、レコードはロードされません。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>指定した親が、ロードするメンバーの子である場合</li><li>指定した親が、Planningアプリケーションに存在しない場合</li></ul>

列	説明
Default Alias	<p>ロードするメンバーの代替名です。プロパティを変更して値を指定しない場合、Planningアプリケーションでの別名は変更されません。&lt;NONE&gt;または&lt;none&gt;を値として指定すると、Planningアプリケーションでの別名は削除されます。</p> <p>正常にロードするには、この列の値が次の要件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 一意。</li> <li>• 英数字。</li> <li>• 80文字以内。</li> <li>• メンバー名には、タブ、二重引用符 (" )、バックスラッシュ (\ ) を使用できません。</li> <li>• メンバー名の先頭の文字には、'、\、&lt;、 、,、=、@、_、+、-、{、}、(、)、.、 を使用できません。</li> <li>• 値には、Essbaseの予約語 (Children、Parent、\$\$\$UNIVERSE \$\$\$、#MISSING、#MIなど) を使用できません。Essbaseの予約語の詳細は、『Hyperion Essbase - System 9 Database Administrator's Guide』またはEssbaseのオンラインヘルプを参照してください。</li> </ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。デフォルト値はNULL文字列です。</p>
Additional Alias	<p>ロードするメンバーの代替名です (オプション)。Alias列の数は、Planningに定義されたAlias表と同じです。別名の各列値は、Default Alias列に示されているものと同じ要件に準拠する必要があります。</p>
Data Storage	<p>ロードするメンバーの記憶域属性です。</p> <p>有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Store</li> <li>• Dynamic Calc</li> <li>• Dynamic Calc and Store</li> <li>• Shared</li> <li>• Never Share (デフォルト)</li> <li>• Label Only</li> </ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。</p>
Two Pass Calculation	<p>ロードするメンバーがTwo-Pass Calculation属性に関連付けられているかどうかを示すブール値。有効値は、0 (デフォルト、Falseの場合) または他の数値 (Trueの場合) です。値は、Data Storage値がDynamic CalcまたはDynamic Calc and Storeである場合にのみ有効です。それ以外の場合、レコードは拒否されます。</p>
Account Type	<p>ロードするメンバーの勘定科目タイプです。有効値は、Revenue、Expense、Asset、Liability、Equity、Saved Assumptionです。デフォルトは、ロードするメンバーの親から取得されます。あるいは、メンバーがルート・ディメンションに追加される場合はExpenseです。</p>

列	説明
Time Balance	<p>勘定科目タイプがSaved Assumptionのみであるか、レコードが拒否された場合のメンバーのタイプです。有効値は、Flow、First、Balance、Averageと、2つの平均化オプションActual_365およびActual_Actualです。（Actual_365の前提では、各月は実際の日数、2月は28日です。Actual_Actualでは、うるう年の2月は29日とします。）</p> <p>デフォルトは、ロードするメンバーの親から取得されます。あるいは、メンバーがルート・ディメンションに追加される場合はFlowです。この値は、Stringとして渡されます。Accountタイプに対して、Time Balanceのデフォルト値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Revenueの場合: Flow</li> <li>• Expenseの場合: Flow</li> <li>• Assetの場合: Balance</li> <li>• Liabilityの場合: Balance</li> <li>• Equityの場合: Balance</li> </ul> <p><b>注意:</b> Time BalanceがFlowの場合、有効なSkip Valueを持つレコードはロードされますが、Skip Valueはすべての勘定科目タイプに対して無効です。</p>
Skip Value	<p>Time Balanceプロパティに設定されるスキップ・オプションです。Time BalanceプロパティがFirst、BalanceまたはAverageに設定されている場合、次のスキップ・オプションが使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• None: 親値の計算時に、ゼロ値および#missing値とみなされることを示します。</li> <li>• Missing: 親値の計算時に、#missing値を除外します。</li> <li>• Zeros: 親値の計算時に、ゼロ値を除外します。</li> <li>• Missing and Zeros: 親値の計算時に、#missing値およびゼロ値を除外します。</li> </ul> <p><b>注意:</b> Time BalanceがFlowの場合、有効なSkip Valueを持つレコードはロードされますが、Skip ValueはすべてのAccountタイプに対して無効です。</p>
Data Type	<p>データ格納値です。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Currency: メンバーのデータ値をデフォルト通貨で格納および表示します。</li> <li>• Non-currency: メンバーのデータ値を数値として格納および表示します。</li> <li>• Percentage: メンバーのデータ値を数値として格納し、割合として表示します。</li> <li>• Smart list / enumeration: メンバーのデータ値を数値として格納し、文字列として表示します。</li> <li>• Date: メンバーのデータ値をmm/dd/yyyyまたはdd/mm/yyyyの形式で格納および表示します。</li> <li>• Text: メンバーのデータ値をテキストとして格納および表示します。</li> <li>• Unspecified: メンバーのデータ値を「指定なし」として格納および表示します。</li> </ul> <p>デフォルト値は、ロードするメンバーの親から取得されます。あるいは、メンバーがルート・ディメンションに追加される場合はCurrencyです。</p>

列	説明
Exchange Rate Type	<p>為替レートです。この列は、Data Type列に指定された値によって決まります。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Data TypeがCurrencyの場合: Average、Ending、Historical</li> <li>• Data TypeがNon-currencyまたはPercentageの場合: None</li> </ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。デフォルト値は、ロードするメンバーの親から取得されます。あるいは、メンバーがルート・ディメンションに追加される場合は、勘定科目タイプに基づいて次の値となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Revenueの場合: Average</li> <li>• Expenseの場合: Average</li> <li>• Assetの場合: Ending</li> <li>• Liabilityの場合: Ending</li> <li>• Equityの場合: Ending</li> <li>• Saved Assumptionの場合: None</li> </ul>
Use 445	<p>Planningアプリケーションで選択された配分を示します。アプリケーションに配分が設定されていない場合は、この列は表示されません。</p> <p>有効値は、0および1（または0以外の数値）です。デフォルト値は1です。</p>
Variance Reporting	<p>勘定科目タイプがSaved Assumptionであるか、レコードが拒否された場合の勘定科目メンバーの値です。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Expense: Saved Assumptionを経費として指定します。差額を特定するために、実額が予算額から減算されます。</li> <li>• Non-Expense: Saved Assumptionを収益として指定します。差額を特定するために、予算額が実額から減算されます。</li> </ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。デフォルト値は、ロードするメンバーの親から取得されます。あるいは、メンバーがルート・ディメンションに追加される場合は、勘定科目タイプの値によって決まります。</p> <p>Accountタイプに対して、値は次のように設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Revenueの場合: Non-Expense</li> <li>• Expenseの場合: Expense</li> <li>• Assetの場合: Non-Expense</li> <li>• Liabilityの場合: Non-Expense</li> <li>• Equityの場合: Non-Expense</li> </ul>

列	説明
Source Plan Type	<p>ロードするメンバーに割り当てられたプラン・タイプのプラン・タイプ名です。有効値は、Planningアプリケーションに指定されたプラン・タイプです。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。デフォルトは、ロードするメンバーの親から取得されます。親のソース・プランがメンバーに対して無効である場合、指定されたプラン・タイプはアプリケーションのメンバーに対して選択されず、メンバーが使用される最初のプラン・タイプが使用されます。メンバーがルート・ディメンションにロードされる場合は、メンバーが使用される最初のプラン・タイプが使用されます。</p> <p>メンバーの親を更新または保存すると、ロードするメンバーに関連付けられたソース・プラン・タイプが新しい親に対して有効かどうかを検証されます。メンバーのソース・プラン・タイプが親メンバーの有効なプラン・タイプではない場合、エラー・メッセージ「ソース・プラン・タイプが有効なプラン・タイプのサブセットに含まれていません。」が表示されます。</p> <p>メンバーのソース・プラン・タイプが親メンバーに対して有効でも、メンバー自体に対して無効である場合、メンバーは保存されますが、ソース・プラン・タイプは最初の有効なプラン・タイプ（Plan 1、Plan 2、Plan 3、Wrkforce、Capexの順）に設定されます。</p> <p><b>注意:</b> ソース・プラン・タイプがアダプタに指定されていて、親に対して無効である場合、レコードは拒否されます。</p>
Plan Type (Plan1)	<p>ロードするメンバーがPlan1で使用されるかどうかを示すブール値。有効値は、0（Falseの場合）または他の数値（Trueの場合）です。デフォルト値はTrueです。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p>
Aggregation (Plan1)	<p>Plan1に関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• +（デフォルト）</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>
Plan Type (Plan2)	<p>ロードするメンバーがPlan2で使用されるかどうかを示すブール値。有効値は、0（Falseの場合）または他の数値（Trueの場合）です。デフォルト値はTrueです。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p>

列	説明
Aggregation (Plan2)	<p>Plan2に関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>
Plan Type (Plan3)	<p>ロードするメンバーがPlan3で使用されるかどうかを示すブール値。有効値は、0 (Falseの場合) または他の数値 (Trueの場合) です。デフォルト値はTrueです。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p>
Aggregation (Plan3)	<p>Plan3に関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>
Plan Type (Wrkforce)	<p>Workforce Planning用: この列は、ロードするメンバーがWorkforce Planningで使用されるかどうかを示すブール値です。有効値は、0 (Falseの場合) または他の数値 (Trueの場合) です。デフォルトはTrueです。実際の列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p>
Aggregation (Wrkforce)	<p>Workforce Planning用: この列は、Workforce Planningに関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>

列	説明
Plan Type (Capex)	Capital Expense Planning用: この列は、ロードするメンバーがCapital Expense Planningで使用されるかどうかを示すブール値です。有効値は、0 (Falseの場合) または他の数値 (Trueの場合) です。デフォルトはTrueです。実際の列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。
Aggregation (Capex)	Capital Expense Planning用: Capital Expense Planningに関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。  この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>
Custom Attribute	カスタム属性メンバー値です。列名は、Planningアプリケーションでのカスタム属性名によって決まります。カスタム属性列の数は、Accountディメンションに定義された属性の数によって異なります。プロパティを変更して値を指定しない場合、Planningアプリケーションでのカスタム属性は変更されません。<NONE>または<none>を値として指定すると、Planningアプリケーションでのカスタム属性は削除されます。この値は、Stringとして渡されます。
Member Formula	ディメンション・メンバーに定義されたメンバー式値です。デフォルトでは、ディメンションまたはディメンション・メンバーに関連付けられたメンバー式はありません。SharedまたはLabel Onlyのディメンション・メンバーについて、メンバー式はロードできません。
UDA	更新対象のユーザー定義属性のリストを指定します。  <b>注意:</b> Planning内で、またはUDAターゲットを通してディメンション・メンバーに対するUDAを定義する必要があります。

列	説明
Smart Lists	<p>Planningアプリケーションに定義されたユーザー定義のスマート・リストの名前です。この値は、Stringとして渡されます。Smart Listsのデフォルトは&lt;None&gt;です。スマート・リストは、メタデータまたはディメンションのロード（データ・ロードではない）で使用し、スマート・リスト名（値ではない）と特定のディメンション・メンバーとの関連付けが定義できるようになります。複数のスマート・リストを1つのディメンションに関連付けることができますが、ディメンション・メンバーに関連付けることができるスマート・リストは1つのみです。</p> <p>Workforce Planningアプリケーションでは、次の事前定義済のスマート・リストを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• None</li> <li>• Status</li> <li>• FT_PT</li> <li>• HealthPlan</li> <li>• TaxRegion</li> <li>• Month</li> <li>• Performance</li> <li>• Position</li> <li>• EmployeeType</li> </ul>
Description	<p>ロードするメンバーの説明です。デフォルトでは、Description列は空です。</p> <p><b>注意:</b> この列の値を入力しない場合または列に接続しない場合、新しいメンバーは説明なしでロードされ、既存のメンバーの説明は変更されません。この列の値として&lt;NONE&gt;を入力すると、メンバーの既存の説明は削除され、メンバーとともにロードされません。</p>
Operation	<p>次の値のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Update（デフォルト）：ロードするメンバーを追加、更新または移動します。</li> <li>• Delete Level 0: 子がない場合、ロードするメンバーを削除します。</li> <li>• Delete Idescendants: ロードするメンバーおよびその子をすべて削除します。</li> <li>• Delete Descendants: ロードするメンバーの子を削除しますが、メンバー自体は削除しません。</li> </ul> <p><b>注意:</b> メンバーを削除すると、そのメンバー、データおよび関連付けられたプランニング・ユニットは永久に削除されリストアできません。</p>

アプリケーションが Planning でのデータ・ロード用に設定されている場合は、Account ディメンション・データのロード用に表示されるその他の列の詳細を、46 ページの「[データ・ロードの列](#)」を参照してください。

# Employee

列	説明
Employee	<p>ロードするメンバーの名前です。このメンバーが存在する場合は、プロパティが変更されます。メンバーが存在しない場合は、レコードが追加されます。この列は必須です。</p> <p>正常にロードするには、この列の値が次の要件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>一意。</li><li>英数字。</li><li>80文字以内。</li><li>メンバー名には、タブ、二重引用符 (" )、バックスラッシュ (\ ) を使用できません。</li><li>メンバー名の先頭の文字には、'、\、&lt;、 、,、=、@、_、+、-、{、}、(、)、.、 を使用できません。</li><li>値には、Essbaseの予約語 (Children、Parent、\$\$\$UNIVERSE \$\$\$、#MISSING、#MIなど) を使用できません。Essbaseの予約語の詳細は、『Hyperion Essbase - System 9 Database Administrator's Guide』またはEssbaseのオンライン・ヘルプを参照してください。</li></ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。</p>
Parent	<p>ロードするメンバーの親の名前です。ディメンションでの階層の作成に使用されます。</p> <p>ロード方式を使用してアプリケーションのメンバーを更新し、アプリケーションの親メンバーとは異なる親メンバーを指定すると、メンバーは、フロー・ダイアグラムで指定した新しい親値で更新されます。</p> <p>たとえば、Member 1のPlanningアプリケーションでの親値がMember Aのとき、親値Member BでMember 1をロードすると、アプリケーションは更新されてMember BがMember 1の親になります。Member 1とその子は、Member AからMember Bに移動します。列が空白のままの場合は、ロード時に無視されます。</p> <p>次の状況のいずれかに該当する場合、レコードはロードされません。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>指定した親が、ロードするメンバーの子である場合</li><li>指定した親が、Planningアプリケーションに存在しない場合</li></ul>

列	説明
Default Alias	<p>ロードするメンバーの代替名です。プロパティを変更して値を指定しない場合、Planningアプリケーションでの別名は変更されません。&lt;NONE&gt;または&lt;none&gt;を値として指定すると、Planningアプリケーションでの別名は削除されます。</p> <p>正常にロードするには、この列の値が次の要件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 一意。</li> <li>• 英数字。</li> <li>• 80文字以内。</li> <li>• メンバー名には、タブ、二重引用符 (" )、バックスラッシュ (\ ) を使用できません。</li> <li>• メンバー名の先頭の文字には、'、\、&lt;、 、,、=、@、_、+、-、{、}、(、)、.、 を使用できません。</li> <li>• 値には、Essbaseの予約語 (Children、Parent、\$\$\$UNIVERSE \$\$\$、#MISSING、#MIなど) を使用できません。Essbaseの予約語の詳細は、『Hyperion Essbase - System 9 Database Administrator's Guide』またはEssbaseのオンラインヘルプを参照してください。</li> </ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。デフォルト値はNULL文字列です。</p>
Additional Alias	<p>ロードするメンバーの代替名です (オプション)。Alias列の数は、Planningに定義されたAlias表と同じです。別名の各列値は、Default Alias列に示されているものと同じ要件に準拠する必要があります。</p>
Data Storage	<p>ロードするメンバーの記憶域属性です。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Store</li> <li>• Dynamic Calc</li> <li>• Dynamic Calc and Store</li> <li>• Shared</li> <li>• Never Share (デフォルト)</li> <li>• Label Only</li> </ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。</p>
Valid for Consolidation	<p>この列は無視されます。</p>
Two Pass Calculation	<p>ロードするメンバーがPlanningアプリケーションでTwo-Pass Calculation属性に関連付けられているかどうかを示すブール値。有効値は、0 (Falseの場合) または他の数値 (Trueの場合) です。デフォルト値はFalseです。値は、Data Storage値がDynamic CalcまたはDynamic Calc and Storeである場合にのみ有効です。それ以外の場合、レコードは拒否されます。</p>

列	説明
Data Type	<p>データ格納値です。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Currency: メンバーのデータ値をデフォルト通貨で格納および表示します。</li> <li>• Non-currency: メンバーのデータ値を数値として格納および表示します。</li> <li>• Percentage: メンバーのデータ値を数値として格納し、割合として表示します。</li> <li>• Smart list / enumeration: メンバーのデータ値を数値として格納し、文字列として表示します。</li> <li>• Date: メンバーのデータ値をmm/dd/yyyyまたはdd/mm/yyyyの形式で格納および表示します。</li> <li>• Text: メンバーのデータ値をテキストとして格納および表示します。</li> <li>• Unspecified: メンバーのデータ値を「指定なし」として格納および表示します。</li> </ul> <p>デフォルト値は、ロードするメンバーの親から取得されます。あるいは、メンバーがルート・ディメンションに追加される場合はCurrencyです。</p>
Custom Attribute	<p>カスタム属性メンバー値です。列名は、Planningアプリケーションでのカスタム属性名によって決まります。カスタム属性列の数は、Employeeディメンションに定義された属性の数によって異なります。プロパティを変更して値を指定しない場合、Planningアプリケーションでのカスタム属性は変更されません。&lt;NONE&gt;または&lt;none&gt;を値として指定すると、Planningアプリケーションでのカスタム属性は削除されます。この値は、Stringとして渡されます。</p>
Aggregation (Plan1)	<p>Plan1に関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>

列	説明
Aggregation (Plan2)	<p>Plan2に関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>
Aggregation (Plan3)	<p>Plan3に関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>
Aggregation (Wrkforce)	<p>Workforce Planning用: この列は、Workforce Planningに関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。</p> <p>この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>

列	説明
Aggregation (Capex)	<p>Capital Expense Planning用: Capital Expense Planningに関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>
Member Formula	<p>ディメンション・メンバーに定義されたメンバー式値です。デフォルトでは、ディメンションまたはディメンション・メンバーに関連付けられたメンバー式はありません。SharedまたはLabel Onlyのディメンション・メンバーについて、メンバー式はロードできません。</p>
UDA	<p>更新対象のユーザー定義属性のリストを指定します。</p> <p><b>注意:</b> Planning内で、またはUDAターゲットを通してディメンション・メンバーに対するUDAを定義する必要があります。</p>
Smart Lists	<p>Planningアプリケーションに定義されたユーザー定義のスマート・リストの名前です。この値は、Stringとして渡されます。Smart Listsのデフォルトは&lt;None&gt;です。スマート・リストは、メタデータまたはディメンションのロード（データ・ロードではない）で使用し、スマート・リスト名（値ではない）と特定のディメンション・メンバーとの関連付けが定義できるようになります。複数のスマート・リストを1つのディメンションに関連付けることができますが、ディメンション・メンバーに関連付けることができるスマート・リストは1つのみです。</p> <p>Workforce Planningアプリケーションでは、次の事前定義済のスマート・リストを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• None</li> <li>• Status</li> <li>• FT_PT</li> <li>• HealthPlan</li> <li>• TaxRegion</li> <li>• Month</li> <li>• Performance</li> <li>• Position</li> <li>• EmployeeType</li> </ul>
Description	<p>ロードするメンバーの説明です。デフォルトでは空です。</p> <p><b>注意:</b> この列の値を入力しない場合または列に接続しない場合、新しいメンバーは説明なしでロードされ、既存のメンバーの説明は変更されません。この列の値として&lt;NONE&gt;を入力すると、メンバーの既存の説明は削除され、メンバーとともにロードされません。</p>

列	説明
Operation	<p>次の値のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Update (デフォルト) : ロードするメンバーを追加、更新または移動します。</li> <li>Delete Level 0: 子がない場合、ロードするメンバーを削除します。</li> <li>Delete Idescendants: ロードするメンバーおよびその子をすべて削除します。</li> <li>Delete Descendants: ロードするメンバーの子を削除しますが、メンバー自体は削除しません。</li> </ul> <p><b>注意:</b> メンバーを削除すると、そのメンバー、データおよび関連付けられたプランニング・ユニットは永久に削除されリストアできません。</p>

アプリケーションが **Planning** でのデータ・ロード用に設定されている場合は、**Employee** ディメンション・データのロード用に表示されるその他の列の詳細を、46 ページの「**データ・ロードの列**」を参照してください。

## Entities

列	説明
Entity	<p>ロードするメンバーの名前です。このメンバーが存在する場合は、プロパティが変更されます。メンバーが存在しない場合は、レコードが追加されます。この列は必須です。</p> <p>正常にロードするには、この列の値が次の要件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一意。</li> <li>英数字。</li> <li>80文字以内。</li> <li>メンバー名には、タブ、二重引用符 (" )、バックスラッシュ (\ ) を使用できません。</li> <li>メンバー名の先頭の文字には、'、\、&lt;、 、,、=、@、_、+、-、{、}、(、)、.、 を使用できません。</li> <li>値には、Essbaseの予約語 (Children、Parent、\$\$\$UNIVERSE \$\$\$、#MISSING、#MIなど) を使用できません。Essbaseの予約語の詳細は、『Hyperion Essbase - System 9 Database Administrator's Guide』またはEssbaseのオンライン・ヘルプを参照してください。</li> </ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。</p>

列	説明
Parent	<p>ロードするメンバーの親の名前です。ディメンションでの階層の作成に使用されます。</p> <p>ロード方式を使用してアプリケーションのメンバーを更新し、アプリケーションの親メンバーとは異なる親メンバーを指定すると、メンバーは、フロー・ダイアグラムで指定した新しい親値で更新されます。</p> <p>たとえば、Member 1のPlanningアプリケーションでの親値がMember Aのとき、親値Member BでMember 1をロードすると、アプリケーションは更新されてMember BがMember 1の親になります。Member 1とその子は、Member AからMember Bに移動します。列が空白のままの場合は、ロード時に無視されます。</p> <p>次の状況のいずれかに該当する場合、レコードはロードされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定した親が、ロードするメンバーの子である場合</li> <li>指定した親が、Planningアプリケーションに存在しない場合</li> </ul>
Default Alias	<p>ロードするメンバーの代替名です。プロパティを変更して値を指定しない場合、Planningアプリケーションでの別名は変更されません。&lt;NONE&gt;または&lt;none&gt;を値として指定すると、Planningアプリケーションでの別名は削除されます。</p> <p>正常にロードするには、この列の値が次の要件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一意。</li> <li>英数字。</li> <li>80文字以内。</li> <li>メンバー名には、タブ、二重引用符 (" )、バックスラッシュ (\ ) を使用できません。</li> <li>メンバー名の先頭の文字には、'、\、&lt;、 、,、=、@、_、+、-、{、}、(、)、.、 を使用できません。</li> <li>値には、Essbaseの予約語 (Children、Parent、\$\$\$UNIVERSE \$\$\$、#MISSING、#MIなど) を使用できません。Essbaseの予約語の詳細は、『Hyperion Essbase - System 9 Database Administrator's Guide』またはEssbaseのオンライン・ヘルプを参照してください。</li> </ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。デフォルト値はNULL文字列です。</p>
Additional Alias	<p>ロードするメンバーの代替名です (オプション)。Alias列の数は、Planningに定義されたAlias表と同じです。別名の各列値は、Default Alias列に示されているものと同じ要件に準拠する必要があります。</p>
Data Storage	<p>ロードするメンバーの記憶域属性です。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Store</li> <li>Dynamic Calc</li> <li>Dynamic Calc and Store</li> <li>Shared</li> <li>Never Share (デフォルト)</li> <li>Label Only</li> </ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。</p>

列	説明
Two Pass Calculation	ロードするメンバーがPlanningアプリケーションでTwo-Pass Calculation属性に関連付けられているかどうかを示すブール値。有効値は、0（デフォルト、Falseの場合）または他の数値（Trueの場合）です。値は、Data Storage値がDynamic CalcまたはDynamic Calc and Storeである場合にのみ有効です。それ以外の場合、レコードは拒否されます。
Data Type	<p>データ格納値です。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Currency: メンバーのデータ値をデフォルト通貨で格納および表示します。</li> <li>• Non-currency: メンバーのデータ値を数値として格納および表示します。</li> <li>• Percentage: メンバーのデータ値を数値として格納し、割合として表示します。</li> <li>• Smart list / enumeration: メンバーのデータ値を数値として格納し、文字列として表示します。</li> <li>• Date: メンバーのデータ値をmm/dd/yyyyまたはdd/mm/yyyyの形式で格納および表示します。</li> <li>• Text: メンバーのデータ値をテキストとして格納および表示します。</li> <li>• Unspecified: メンバーのデータ値を「指定なし」として格納および表示します。</li> </ul> <p>デフォルト値は、ロードするメンバーの親から取得されます。あるいは、メンバーがルート・ディメンションに追加される場合はCurrencyです。</p>
Base Currency	ロードするエンティティの基準通貨です。Planningアプリケーションで定義されている通貨コードとなります。デフォルト値はUSDです。この列は、アプリケーションに多通貨が定義されている場合にのみ表示されます。
Plan Type (Plan1)	ロードするメンバーがPlan1で使用されるかどうかを示すブール値。有効値は、0（Falseの場合）または他の数値（デフォルト、Trueの場合）です。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。
Aggregation (Plan1)	<p>Plan1に関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• +（デフォルト）</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>
Plan Type (Plan2)	ロードするメンバーがPlan2で使用されるかどうかを示すブール値。有効値は、0（Falseの場合）または他の数値（Trueの場合）です。デフォルト値はTrueです。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。

列	説明
Aggregation (Plan2)	<p>Plan2に関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>
Plan Type (Plan3)	<p>ロードするメンバーがPlan3で使用されるかどうかを示すブール値。有効値は、0 (Falseの場合) または他の数値 (Trueの場合) です。デフォルト値はTrueです。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p>
Aggregation (Plan3)	<p>Plan3に関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>
Aggregation (Wrkforce)	<p>Workforce Planning用: Workforce Planningに関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>

列	説明
Aggregation (Capex)	<p>Capital Expense Planning用: Capital Expense Planningに関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>
Custom Attribute	<p>カスタム属性メンバー値です。列名は、Planningアプリケーションでのカスタム属性名によって決まります。</p> <p>カスタム属性列の数は、Entityディメンションに定義された属性の数によって異なります。プロパティを変更して値を指定しない場合、Planningアプリケーションでのカスタム属性は変更されません。&lt;NONE&gt;または&lt;none&gt;を値として指定すると、Planningアプリケーションでのカスタム属性は削除されます。この値は、Stringとして渡されます。</p>
Member Formula	<p>ディメンション・メンバーに定義されたメンバー式値です。デフォルトでは、ディメンションまたはディメンション・メンバーに関連付けられたメンバー式はありません。SharedまたはLabel Onlyのディメンション・メンバーについて、メンバー式はロードできません。</p>
UDA	<p>更新対象のユーザー定義属性のリストを指定します。</p> <p><b>注意:</b> Planning内で、またはUDAターゲットを通してディメンション・メンバーに対するUDAを定義する必要があります。</p>

列	説明
Smart Lists	<p>Planningアプリケーションに定義されたユーザー定義のスマート・リストの名前です。この値は、Stringとして渡されます。Smart Listsのデフォルトは&lt;None&gt;です。スマート・リストは、メタデータまたはディメンションのロード（データ・ロードではない）で使用し、スマート・リスト名（値ではない）と特定のディメンション・メンバーとの関連付けが定義できるようになります。複数のスマート・リストを1つのディメンションに関連付けることができますが、ディメンション・メンバーに関連付けることができるスマート・リストは1つのみです。</p> <p>Workforce Planningアプリケーションでは、次の事前定義済のスマート・リストを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• None</li> <li>• Status</li> <li>• FT_PT</li> <li>• HealthPlan</li> <li>• TaxRegion</li> <li>• Month</li> <li>• Performance</li> <li>• Position</li> <li>• EmployeeType</li> </ul>
Description	<p>ロードするメンバーの説明です。デフォルトでは空です。</p> <p><b>注意:</b> この列の値を入力しない場合または列に接続しない場合、新しいメンバーは説明なしでロードされ、既存のメンバーの説明は変更されません。この列の値として&lt;NONE&gt;を入力すると、メンバーの既存の説明は削除され、メンバーとともにロードされません。</p>
Operation	<p>次の値のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Update（デフォルト）：ロードするメンバーを追加、更新または移動します。</li> <li>• Delete Level 0: 子がない場合、ロードするメンバーを削除します。</li> <li>• Delete Idescendants: ロードするメンバーおよびその子をすべて削除します。</li> <li>• Delete Descendants: ロードするメンバーの子を削除しますが、メンバー自体は削除しません。</li> </ul> <p><b>注意:</b> メンバーを削除すると、そのメンバー、データおよび関連付けられたプランニング・ユニットは永久に削除されリストアできません。</p>

アプリケーションが Planning でのデータ・ロード用に設定されている場合は、Entities データのロード用に表示されるその他の列の詳細を、46 ページの「[データ・ロードの列](#)」を参照してください。

## ユーザー定義のディメンション

列	説明
Entity	<p>ロードするメンバーの名前です。このメンバーが存在する場合は、プロパティが変更されます。メンバーが存在しない場合は、レコードが追加されます。この列は必須です。</p> <p>正常にロードするには、この列の値が次の要件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>一意。</li><li>英数字。</li><li>80文字以内。</li><li>メンバー名には、タブ、二重引用符 (")、バックスラッシュ (\) を使用できません。</li><li>メンバー名の先頭の文字には、'、\、&lt;、 、,、=、@、_、+、-、{、}、(、)、.、 を使用できません。</li><li>値には、Essbaseの予約語 (Children、Parent、\$\$\$UNIVERSE \$\$\$、#MISSING、#MIなど) を使用できません。Essbaseの予約語の詳細は、『Hyperion Essbase - System 9 Database Administrator's Guide』またはEssbaseのオンラインヘルプを参照してください。</li></ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。</p>
Parent	<p>ロードするメンバーの親の名前です。ディメンションでの階層の作成に使用されます。</p> <p>ロード方式を使用してアプリケーションのメンバーを更新し、アプリケーションの親メンバーとは異なる親メンバーを指定すると、メンバーは、フロー・ダイアグラムで指定した新しい親値で更新されます。</p> <p>たとえば、Member 1のPlanningアプリケーションでの親値がMember Aのとき、親値Member BでMember 1をロードすると、アプリケーションは更新されてMember BがMember 1の親になります。Member 1とその子は、Member AからMember Bに移動します。列が空白のままの場合は、ロード時に無視されます。</p> <p>次の状況のいずれかに該当する場合、レコードはロードされません。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>指定した親が、ロードするメンバーの子である場合</li><li>指定した親が、Planningアプリケーションに存在しない場合</li></ul>

列	説明
Default Alias	<p>ロードするメンバーの代替名です。プロパティを変更して値を指定しない場合、Planningアプリケーションでの別名は変更されません。&lt;NONE&gt;または&lt;none&gt;を値として指定すると、Planningアプリケーションでの別名は削除されます。</p> <p>正常にロードするには、この列の値が次の要件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一意。</li> <li>英数字。</li> <li>80文字以内。</li> <li>メンバー名には、タブ、二重引用符 (")、バックスラッシュ (\) を使用できません。</li> <li>メンバー名の先頭の文字には、'、\、&lt;、 、,、=、@、_、+、-、{、}、(、)、.、 を使用できません。</li> <li>値には、Essbaseの予約語 (Children、Parent、\$\$\$UNIVERSE \$\$\$、#MISSING、#MIなど) を使用できません。Essbaseの予約語の詳細は、『Hyperion Essbase - System 9 Database Administrator's Guide』またはEssbaseのオンラインヘルプを参照してください。</li> </ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。デフォルト値はNULL文字列です。</p>
Additional Alias	<p>ロードするメンバーの代替名です (オプション)。Alias列の数は、Planningに定義されたAlias表と同じです。別名の各列値は、Default Alias列に示されているものと同じ要件に準拠する必要があります。</p>
Data Storage	<p>ロードするメンバーの記憶域属性です。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Store</li> <li>Dynamic Calc</li> <li>Dynamic Calc and Store</li> <li>Shared</li> <li>Never Share (デフォルト)</li> <li>Label Only</li> </ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。</p>
Two Pass Calculation	<p>ロードするメンバーがPlanningアプリケーションでTwo-Pass Calculation属性に関連付けられているかどうかを示すブール値。有効値は、0 (デフォルト、Falseの場合) または他の数値 (Trueの場合) です。値は、Data Storage値がDynamic CalcまたはDynamic Calc and Storeである場合にのみ有効です。それ以外の場合、レコードは拒否されます。</p>

列	説明
Data Type	<p>データ格納値です。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Currency: メンバーのデータ値をデフォルト通貨で格納および表示します。</li> <li>• Non-currency: メンバーのデータ値を数値として格納および表示します。</li> <li>• Percentage: メンバーのデータ値を数値として格納し、割合として表示します。</li> <li>• Smart list / enumeration: メンバーのデータ値を数値として格納し、文字列として表示します。</li> <li>• Date: メンバーのデータ値をmm/dd/yyyyまたはdd/mm/yyyyの形式で格納および表示します。</li> <li>• Text: メンバーのデータ値をテキストとして格納および表示します。</li> <li>• Unspecified: メンバーのデータ値を「指定なし」として格納および表示します。</li> </ul> <p>デフォルト値は、ロードするメンバーの親から取得されます。あるいは、メンバーがルート・ディメンションに追加される場合はCurrencyです。</p>
Aggregation (Plan1)	<p>Plan1に関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>
Aggregation (Plan2)	<p>Plan2に関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>

列	説明
Aggregation (Plan3)	<p>Plan3に関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>
Aggregation (Wrkforce)	<p>Workforce Planning用: Workforce Planningに関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>
Aggregation (Capex)	<p>Capital Expense Planning用: Capital Expense Planningに関連する、ロードするメンバーの集計オプションです。この列は、Planningアプリケーションがこのプラン・タイプに対して有効な場合にのみ使用できます。列名は、Planningアプリケーションでのプラン・タイプ名によって異なります。</p> <p>この値は、Stringとして渡されます。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• + (デフォルト)</li> <li>• -</li> <li>• *</li> <li>• /</li> <li>• %</li> <li>• ~</li> <li>• Never</li> </ul>
Custom Attribute	<p>カスタム属性メンバー値です。列名は、Planningアプリケーションでのカスタム属性名によって決まります。カスタム属性列の数は、ユーザー定義のディメンションに定義された属性の数によって異なります。プロパティを変更して値を指定しない場合、Planningアプリケーションでのカスタム属性は変更されません。&lt;NONE&gt;または&lt;none&gt;を値として指定すると、Planningアプリケーションでのカスタム属性は削除されます。この値は、Stringとして渡されます。</p>

列	説明
Member Formula	ディメンション・メンバーに定義されたメンバー式値です。デフォルトでは、ディメンションまたはディメンション・メンバーに関連付けられたメンバー式はありません。SharedまたはLabel Onlyのディメンション・メンバーについて、メンバー式はロードできません。
UDA	更新対象のユーザー定義属性のリストを指定します。 <b>注意:</b> Planning内で、またはUDAターゲットを通してディメンション・メンバーに対するUDAを定義する必要があります。
Smart Lists	Planningアプリケーションに定義されたユーザー定義のスマート・リストの名前です。この値は、Stringとして渡されます。Smart Listsのデフォルトは<None>です。スマート・リストは、メタデータまたはディメンションのロード（データ・ロードではない）で使用し、スマート・リスト名（値ではない）と特定のディメンション・メンバーとの関連付けが定義できるようになります。複数のスマート・リストを1つのディメンションに関連付けることができますが、ディメンション・メンバーに関連付けることができるスマート・リストは1つのみです。  Workforce Planningアプリケーションでは、次の事前定義済のスマート・リストを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• None</li> <li>• Status</li> <li>• FT_PT</li> <li>• HealthPlan</li> <li>• TaxRegion</li> <li>• Month</li> <li>• Performance</li> <li>• Position</li> <li>• EmployeeType</li> </ul>
Description	ロードするメンバーの説明です。デフォルトでは空です。 <b>注意:</b> この列の値を入力しない場合または列に接続しない場合、新しいメンバーは説明なしでロードされ、既存のメンバーの説明は変更されません。この列の値として<NONE>を入力すると、メンバーの既存の説明は削除され、メンバーとともにロードされません。
Operation	次の値のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Update（デフォルト）：ロードするメンバーを追加、更新または移動します。</li> <li>• Delete Level 0: 子がない場合、ロードするメンバーを削除します。</li> <li>• Delete Idescendants: ロードするメンバーおよびその子をすべて削除します。</li> <li>• Delete Descendants: ロードするメンバーの子を削除しますが、メンバー自体は削除しません。</li> </ul> <b>注意:</b> メンバーを削除すると、そのメンバー、データおよび関連付けられたプランニング・ユニットは永久に削除されリストアできません。

アプリケーションが Planning でのデータ・ロード用に設定されている場合は、ユーザー定義のディメンション・データのロード用に表示されるその他の列の詳細を、46 ページの「[データ・ロードの列](#)」を参照してください。

## 属性のディメンション

列	説明
Entity	<p>ロードするメンバーの名前です。このメンバーが存在する場合は、プロパティが変更されます。メンバーが存在しない場合は、レコードが追加されます。この列は必須です。</p> <p>正常にロードするには、この列の値が次の要件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>一意。</li><li>英数字。</li><li>80文字以内。</li><li>メンバー名には、タブ、二重引用符 (" )、バックスラッシュ (\ ) を使用できません。</li><li>メンバー名の先頭の文字には、'、\、&lt;、 、,、=、@、_、+、-、{、}、(、)、.、 を使用できません。</li><li>値には、Essbaseの予約語 (Children、Parent、\$\$\$UNIVERSE \$\$\$、#MISSING、#MIなど) を使用できません。Essbaseの予約語の詳細は、『Hyperion Essbase - System 9 Database Administrator's Guide』またはEssbaseのオンライン・ヘルプを参照してください。</li></ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。</p>
Parent	<p>ロードするメンバーの親の名前です。ディメンションでの階層の作成に使用されます。</p> <p>ロード方式を使用してアプリケーションのメンバーを更新し、アプリケーションの親メンバーとは異なる親メンバーを指定すると、メンバーは、フロー・ダイアグラムで指定した新しい親値で更新されます。</p> <p>たとえば、Member 1のPlanningアプリケーションでの親値がMember Aのとき、親値Member BでMember 1をロードすると、アプリケーションは更新されてMember BがMember 1の親になります。Member 1とその子は、Member AからMember Bに移動します。列が空白のままの場合は、ロード時に無視されます。</p> <p>次の状況のいずれかに該当する場合、レコードはロードされません。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>指定した親が、ロードするメンバーの子である場合</li><li>指定した親が、Planningアプリケーションに存在しない場合</li></ul>

列	説明
Default Alias	<p>ロードするメンバーの代替名です。プロパティを変更して値を指定しない場合、Planningアプリケーションでの別名は変更されません。&lt;NONE&gt;または&lt;none&gt;を値として指定すると、Planningアプリケーションでの別名は削除されます。</p> <p>正常にロードするには、この列の値が次の要件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一意。</li> <li>英数字。</li> <li>80文字以内。</li> <li>メンバー名には、タブ、二重引用符 (" )、バックスラッシュ (\ ) を使用できません。</li> <li>メンバー名の先頭の文字には、'、\、&lt;、 、,、=、@、_、+、-、{、}、(、)、.、 を使用できません。</li> <li>値には、Essbaseの予約語 (Children、Parent、\$\$\$UNIVERSE \$\$\$、#MISSING、#MIなど) を使用できません。Essbaseの予約語の詳細は、『Hyperion Essbase - System 9 Database Administrator's Guide』またはEssbaseのオンライン・ヘルプを参照してください。</li> </ul> <p>この値は、Stringとして渡されます。デフォルト値はNULL文字列です。</p>
Additional Alias	<p>ロードするメンバーの代替名です (オプション)。Alias列の数は、Planningに定義されたAlias表と同じです。別名の各列値は、Default Alias列に示されているものと同じ要件に準拠する必要があります。</p>
Operation	<p>次の値のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Update (デフォルト) : ロードするメンバーを追加、更新または移動します。</li> <li>Delete Level 0: 子がない場合、ロードするメンバーを削除します。</li> <li>Delete Idescendants: ロードするメンバーおよびその子をすべて削除します。</li> <li>Delete Descendants: ロードするメンバーの子を削除しますが、メンバー自体は削除しません。</li> </ul> <p><b>注意:</b> メンバーを削除すると、そのメンバー、データおよび関連付けられたプランニング・ユニットは永久に削除されリストアできません。</p>

**注意:**

Parent、Default AliasおよびAdditional Aliasの列は、Planning 9.3.1以上でのみ使用できます。

## UDA

列	説明
Dimension	UDAのディメンション名です。UDAは、Planningアプリケーションに存在するディメンションにのみ関連付けることができます。UDAが存在する場合は、プロパティが変更されます。存在しない場合は、レコードが追加されます。この列は必須です。
UDA	ロードするUDAの値です。
Dimension	ロードするUDAの値です。  正常にロードするには、この列の値が次の要件を満たす必要があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>一意。</li><li>英数字。</li><li>80文字以内。</li><li>メンバー名には、タブ、二重引用符 (")、バックスラッシュ (\) を使用できません。</li><li>メンバー名の先頭の文字には、'、\、&lt;、 、,、=、@、_、+、-、{、}、(、)、.、 を使用できません。</li><li>値には、Essbaseの予約語 (Children、Parent、\$\$\$UNIVERSE \$\$\$、#MISSING、#MIなど) を使用できません。Essbaseの予約語の詳細は、『Hyperion Essbase - System 9 Database Administrator's Guide』またはOracleのHyperion Essbase - System 9のオンライン・ヘルプを参照してください。</li></ul>
Operation	次の値のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"><li>Update (デフォルト) : ロードするメンバーを追加、更新または移動します。</li><li>Delete Level 0: 子がない場合、ロードするメンバーを削除します。</li><li>Delete Idescendants: ロードするメンバーおよびその子をすべて削除します。</li><li>Delete Descendants: ロードするメンバーの子を削除しますが、メンバー自体は削除しません。</li></ul> <p><b>注意:</b> メンバーを削除すると、そのメンバー、データおよび関連付けられたプランニング・ユニットは永久に削除されリストアできません。</p>

## データ・ロードの列

Account、Employee、Entities およびユーザー定義のディメンションにデータをロードするための次の列は、アプリケーションが Planning でのデータ・ロード用に設定されている場合に表示されます。

列	説明
Data Load Cube Name	<p>データがロードされるプラン・タイプの名前です。この値は、Stringとして渡されます。有効値は、Planningアプリケーションに指定されたプラン・タイプです。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Plan1</li><li>• Plan2</li><li>• Plan3</li><li>• Wkforce</li><li>• Capex</li></ul>
Driver Member	<p>Planning、OracleのHyperion Workforce Planning、Hyperion Capital Expense Planningのアプリケーションがデータ・ロード用に設定されるときに選択されたドライバ・メンバーの名前です。ロードごとに1つのDriverディメンションを保持できます。DriverディメンションおよびDriverディメンション・メンバーは、Planningのデータ・ロード管理ページで定義されます。ドライバ・メンバーは、データがロードされるメンバーです。Driver Member列の数は、OracleのHyperion Planning - System 9で選択したドライバ・メンバーの数によって決まります。この値は、数値を表す文字列、あるいは、この列で表されるメンバーにスマート・リストがバインドされている場合は、Smart List値を表す文字列として渡されます。</p> <p><b>注意:</b> このロード方式でのSmart Listフィールドは、この列に影響しません。</p>
Point-of-View	<p>データをロードする共通部分を決定するために必要な、その他すべてのディメンションの名前です。この値は、Stringとして渡されます。データ・ロードにより、POVに定義されたディメンション・パラメータに基づいて製品をまたぐレコード作成が自動的に実行されます。たとえば、経時的に一定である従業員のSmart List属性値（12か月間常に常勤ステータスなど）は、データ入力で指定する必要があるのは1度だけで、ロード・ファイルは、関連セルの共通部分ごとにそのデータ・レコードを作成およびロードします。</p>